

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

エントリー学校名：島根県吉賀町立蔵木小学校

活動名：関わりがもっと広がるには ～保護者の意見で学校が活性化～

解決すべき課題：

- ・教育活動に対して協力的な家庭が多いが、学校主体の行事が多く、保護者の意見や出番が少ない。
- ・連携していた校区の中学校が2年前に閉校し、本校出身の中学生との関わりが激減した。

目標・方針：

目標：保護者・学校の連携の意識を高め、双方にとってより身近な関係づくりを目指す
 方針：保護者の意見や活躍の場面を広げるため、PTAの事業部の見直しや、本校が力を入れている「食」を中心としたふれあいに関する事業部会の新設をする。年2～3回の事業部会で、目指す行事にむけて保護者に意見を募る。そうすることで取組に対して主体性が生まれ、保護者のやりがいが高まっていくであろう。また、本校出身の中学生にも誘いをかけることで、中学生の姿も見える行事となる。

活動内容：

- ①PTA事業部会の活動：「食の自立」に向けて「家族ふれあいデー部会」を新設。他に、「ふれあい合宿部会」「広報部会」「くらぎフェスタ部会」があり、保護者はそのいずれかに所属する。
- ②「ふれあい合宿部会」（保護者3名）では、コロナ渦の中で宿泊体験ができなくなった分、どのような形で親子の時間の充実を図るか協議を行った。
- ③「家族ふれあいデー部会」（保護者3名）では、家庭で調理をしながら家族のふれあいが持て、さらに子どもにとって、「食の自立」に向けてどのような取組ができるかを協議した。
- ④卒業生の行事への招待を昨年度から行っている。（運動会やふれあい合宿、和太鼓演奏など）

活動の成果：

- ①昨年、学校保健委員会で長崎県の福田泰三氏に講演（写真1）をしていただいたことで、食に関する取組意識が高まっていた。事業部を新設したが、積極的に話し合い、活動していただけた。
- ②「ふれあい合宿部会」の協議では、火熾し体験を取り入れた飯盒炊飯の提案があった。火熾しの道具を事前に持ち帰り、練習されたお父さんもおられるほどだった。当日地域の方にもお手伝いいただきながら活動を行うことができた。子ども達もあきらめず火を熾したことで特別な飯盒炊飯となった。（写真2）
- ③「家族ふれあいデー部会」の協議では、取組の期間に幅を持たせることや、取組のコースに「調理につかう野菜を栽培してみる」などの意見も出され、第1回目の取り組み期間で、実際にトマト栽培のお手伝いをしている児童も見られた。また今後10月17日の学校保健委員会の講演会では、竹下和男氏をお迎えする。保護者から、この日を「弁当の日」とし、当日家族でふれあいながら作った弁当を持ち寄ることが提案された。
- ④飯盒炊飯（写真3）、運動会のリレーなどに招待状を出したことで、当日中学生の参加があった。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ・コロナ渦であるが、どうすれば活動の実現ができるのか前向きに考えることで各行事が実現できた。
- ・養護教諭のアイデアで、臨時休校の期間に職員全員が弁当づくりに挑戦し、それを写真に撮ることになった。それを「家族ふれあいだより」（資料1）として休校明けに全校配布したところ、保護者・児童に好評だった。家族ふれあいデー部会の「お弁当の日」につながり、事前学習の資料としても活用できた。

写真1



写真2



写真3



資料1「家族ふれあいだより6月号」



図1

